

核廃絶 広島から世界へ

国際賢人会議

危機感 英語で訴え

核兵器を持つ国と持たない国からの有識者の委員を招き、広島市で10日開幕した「国際賢人会議」。被爆者や平和活動に関わる若者たちも委員と対面した。被爆地の思いを伝え、「核兵器のない世界」に向か了一歩となることを願う。

▼3面参照

「きょうはお話しはじめて」といふ言葉が飛び交う。広島県府中町の八幡照子さん(85)は10日夕、国際賢人会議の委員に向けた被爆体験講話(非公開)を任せられ英語でじつあらさつした。8歳の時に被爆した。八幡さんによると、爆風で体

が飛ばされた」とや学校で遺体が火葬されていた」となど語ったという。

2013年、国際NGOが催す世界一周の「証言の航海」に参加した。被爆体験を語りながら、各地を巡

り、「同じ時代に生まれ合わせたのは奇跡。だから平和

国際賢人会議を若い世代はどう見てくるのか。広島県尾道市出身の被爆3世で大学院生の片山実咲さん(23)は9日、委員との意見交換会に参加した。

「核廃絶への議論が硬直するなか、何とか打ち破ろうといふ姿勢が伝わってきた。國のしがらみを離れて、突破口を見つけてほしい」と期待する。

広島市出身の大学生、庭田杏珠さん(20)は「賢人会議の開催には意義を感じる」と語る一方で、敵基地



八幡照子さん

若者ら「突破口を見つけて」

19年から広島平和記念資料館などで体験を語る「証言者」として活動。「自分

の声で海外の人々に訴えた

い」と練習を繰り返し、今年8月から英語で証言を重ねて

「核兵器が使われれば、地球は滅亡に向かうのに、なぜ1万何千発もあるのか」。そう思う。ロシアによる核兵器使用の威嚇や、日本の防衛費増額にも危機感を感じる。

委員からは「心にしみた」などと声が上がった。八幡さんは講話後、報道陣に「(会議での)議論に生かしてほしい」と語った。(西田将平)

攻撃能力保有をめぐる動きと、「核兵器のない世界」をめざす動きの乖離を感じるところ。

「核政策を知りたい広島若者有権者会」共同代表の田中美穂さん(28)は10日の意見交換の場で、「核実験やウラン採掘による健康被害など、人間の尊厳を守るためにできぬ核抑止はすでに破綻している。具体的な目標を掲げ、核保有国に迫つてください」と訴えた。

(黒田陸離、興野優平)